



読書の秋ですね

新しい本がたくさん入りました



『メタバースとは何か 光文社新書』 岡嶋裕史

メタバースとは何か？「現実とは少し異なる理で作られ、自分にとって都合がいい快適な世界」がメタバースの定義。ではそのメタバースが私たちの生活をどう変えるのか？そこにあるビジネスチャンスとは？企業の動向取り組みなどを紹介しながら、その可能性を探る。

『人生はゲームなのだろうか？

ちくまプリマー新書』 平尾昌宏

“答えのなさそうな問題”に答える哲学。人生はゲームなのか。人生について考えるのは難しいし答えがなさそうだ。“だから生きるのはつらい”のかー？「ゲーム」「人生」をキーワードに、哲学的思考を教えてくれる。

『作家たちの17歳 岩波ジュニア新書』

千葉俊二

17歳のころ。文豪はではなかった太宰治、宮沢賢治、芥川龍之介、谷崎潤一郎、樋口一葉、夏目漱石。10代の彼らが向き合った人生の決断を当時の日記や創作の言葉とともに紹介。明治・大正時代の学校制度がわかるコラムも興味深い。

『ん 日本語最大の謎に挑む 新潮新書』

山口謠司

母音でも子音でもなく清音でも濁音でもない、単語としての意味を持たない「ん」。かつて日本には存在しなかったという「ん」。「ん」はいつ誕生しどんな影響を日本に与えてきたのか。「ん」誕生の謎を、碩学や日本語の研究から解き明かす。

新しく入った本(新書のおすすめ)

話題の新書を読んでみませんか？

『日本アニメ史 中公新書』 津堅信之

“手塚治虫、宮崎駿、庵野秀明、新海誠らの100年”初の国産アニメが作られてから100年余り経つという。海外でも人気が高く日本のポップカルチャーとなったアニメ。大正時代の試行錯誤からジブリ、エヴァ、鬼滅まで。その歴史と現在、名作の数々を非常に細かく紹介している。深夜放送アニメ・配信の作品まで網羅されており、アニメが好きな人には特におすすめ。

『映画を早送りで見ると人々 光文社新書』 稲田豊史

映画や映像を早送り再生しながら観る人がいる。そしてその倍速視聴の現象はあらゆる創作の現場に影響を与えているという。もちろんそれは書籍、読書にも無関係ではない。なぜこのような習慣が身につくのか、現代の消費社会の実態と共に読み解く。

新書の棚が変わりました(図書館の奥にあります)

分類ごとに並べ替えたので探している本を見つけやすくなりましたよ

例:「哲学」関連の新書を探す

哲学は100
なのか…



① 新書の棚に備え付けの分類表で「哲学」の分類番号を探す(哲学は100)

② 棚の中から背表紙のラベルの数字が100番台の本を探す



100
TA

哲学の本

100哲学の
新書みつけた!